

ルリイトトンボ

Enallagma boreale cirulatum Selys

トンボ目イトトンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

選定理由

分布西南限に近く、県内では2箇所を確認されたに過ぎず、そのうち、1箇所は近年の発生が見られない。ブルーギルやブラックバス等の移入や、開発の影響が危惧されている。

形態

腹長25~30mm、後翅長20~25mm。オスは美しいり色で、黒条があり、メスの地色は青緑で背面は黒条が発達する。

国内分布

本州中部以北から北海道に分布し、岐阜県白鳥町と高根村が西南限。福井県の上小池や刈込池にも生息するが、富山県では未発見。

県内分布

能美市鍋谷の蟹淵と、小松市桂町のため池から知られているに過ぎない。桂町の池は、標高度が極めて低い点でも注目されたが、最近はまったく見られなくなった。

生態

本州の山地では5月末から成虫が出現し、8月下旬まで活動する。小松市桂町では、4月下旬にはすでに成熟虫も見られ、蟹淵では、8月上旬にも観察されている。未熟期には池沼の周囲の林内に分散しているが、成熟虫は水域にもどって水面を低く飛び、オスどうしで干渉し合ったりメスを追尾したりする。産卵は、水草の茎に単独または連結態で行なう。

生息地の条件

山間に開けた湖沼で、水温が低く、適当に水草が生えていること。周囲に雑木林があり、農薬の空中散布などの影響が及ばず、池沼には強力な捕食者がいないこと。

生存の危機

能美市の蟹淵では、ブルーギルによる捕食のためか個体数が一時減少したが、最近では回復傾向にある。小松市桂町の池への進出は最近のことと思われ、今後も発生するか否かは不明である。ここも、外来魚が放流されている。周囲の山林が伐採されたり、スギの植林が進むと直接的な影響を受ける。桂町の池は下方がすでに伐開されている。気候温暖化や水質悪化の影響も否定できない。

(A, C, D)

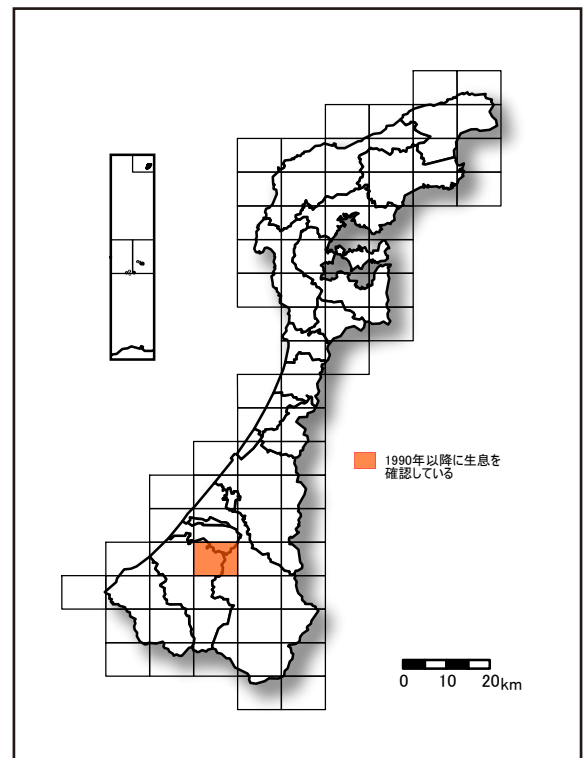
参考文献

武藤 明 1998. 石川・福井の1998年度の蜻蛉資料. Tombo, 41 : 33-36.

武藤 明 2007. 石川県の蜻蛉に関する最近の知見. とっくりばち, (75) : 24-28.



写真提供者: 富沢章



県内の分布